

大学教育学会

2010年度課題研究集会報告

教育開発支援機構

FD推進センター長 川上 忠重

大学教育学会 2010年度課題研究集会が2010年11月27日(土)、28日(日)に西宮市武庫川女子大学で開催された。今回の統一テーマは、「キャリア形成における大学教育—ライフサイクルの視点から—」であり、国内外の大学において喫緊の課題となっている「キャリア教育」とその義務化を定めた日本の政策動向を踏まえつつ、キャリア形成と大学の役割を多角的に議論することが目指されている。初日は基調講演とシンポジウムで構成され、統一テーマについて、井下理 氏（慶応義塾大学）による基調講演に続き、「武庫川女子大学におけるキャリア教育への取り組み」福島秀行 氏（武庫川女子大学）、「今求められるキャリア教育の背景とその在り方」川嶋太津夫 氏（神戸大学）、「『学問教育共同体』の現代的再編成について」田中每実 氏（京都大学）の話題提供、パネルディスカッションが行われた。基調講演では、入学してくる学生たちの多様化に対して、どのように教育するのか、何を教育すべきかについての問題提起や、「ライフサイクル」という視座から「キャリア形成」および「大学教育」を考察し、大学教育を提供する「主体」の側にも着目し、大学教育を構成する教員・職員および経営管理者といったそれぞれにとっての「キャリア形成」の考察の重要性等も指摘された。話題提供では、現在の就職状況の実態、キャリア教育の問題背景、例えば、「転職が当たり前」であり、生涯が複数職業や職場から構成される「ポートフォリオ社会」であることやキャリア教育とは、社会人として、職業人として生涯自律して就業することを可能とするような基礎的、基盤的な能力を育成する教育、いわば「持続可能な就業力 Sustainable Employability」の育成であるとの考え方も紹介された。また、職業選択は、キャリア形成

の中核営為であることを踏まえ、大学の個別性・ローカリティに即して、Frank Person 流（「職業選択」は自分を知り仕事を知り、両者の合理的なマッチングを通してされるべき）の職業選択論が活かされるべきであるとの方向性も示された。

後半のパネルディスカッションでは、キャリア教育に関する教員・職員の関係についても、議論が活発に行われた。多くの高等教育機関において、キャリア教育はすでに行われつつあるが、教員・職員として、専門教育との連携で、キャリア教育の質向上について考える必要性についても検討が行われた。

二日目は、3つのシンポジウムが一部並行して開催されたため、シンポジウムⅡの報告をしたい。シンポジウムⅡでは、「SDの新たな地平—『大学人』能力開発に向けて—」をテーマとして、2010年度春に大学教育学会の会員を主たる対象としたアンケートの内容および調査結果の概要が報告された。教員と職員の協働のあり方と「大学人」の新たな業務について、例えば、教職協働の広まり（現状の大学を活性化し、より豊かな大学文化を育むための大学改革にとって教職協働が必要であると多くの教員・職員ともに認めている）、教員と職員の意識の接近、「大学人」としての意識を持った大学勤務員を増やし、実態的に「大学人」による大学を活性化するための教職協働の実を挙げることの重要性が報告された。

FD、SD、キャリア教育等、教員、職員の「大学人」としての教育の質向上に向けた拘りは、多岐にわたっている。本来の高等教育機関としての役割を踏まえた上で、これらの問題について「教育の質」向上に向けた情報提供をFD推進センターとして行っていきたいと思う。

以上